

SYOHEI ニュース

令和3年7月号

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

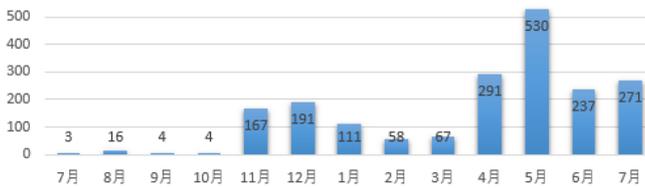
岩手県内の月間新型コロナウイルス陽性者は、7月28日現在で1,950人です。6月の感染者数を上回り、まだまだ高い水準にあります。

患者の状況(令和3年7月28日15時00分発表)は、人

患者数	入院・療養(重傷)	退院等	死亡
1,950	106(0)	1,797	47

岩手県内の月別コロナ患者数(令和3年7月28日現在)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	3	16	4	4	167	191	111	58	67	291	530	237	271

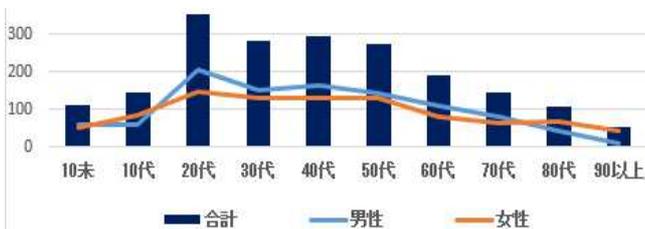


年代別患者数と無症状者数 R2.3~3.7.28 (単位:人)

感染者の21%が無症状者。年代では20代~50代で61%

年代	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90上	合計	比率
男性	59	61	206	152	165	141	110	82	41	11	1028	男性
無症状	17	13	31	33	35	20	23	17	6	1	196	19%
女性	52	83	146	129	129	131	79	62	68	43	922	女性
無症状	22	20	24	16	28	28	16	15	21	15	205	22%
合計	111	144	352	281	294	272	189	144	109	54	1950	合計
年代構成比	6%	7%	18%	14%	15%	14%	10%	8%	6%	3%	100%	
無症状	39	33	55	49	63	48	39	32	27	16	401	21%
無症状者比率	35%	23%	16%	18%	21%	18%	21%	22%	25%	30%	21%	

県内の年代別コロナ患者数 R2.3~3.7.28 (単位:人)



市立病院・診療所改革プラン素案公表

7月26日、市議会新市立病院建設調査特別委員会で標記改革プラン素案を公表しました。総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所を統合した新病院を2026年度開院を目指すという内容で、

病床数は124床(現235床)になります。内訳は急性期が36床(現115床)、回復期が84床(現97床)、感染症が4床(現4床)です。

新病院の運営ビジョンは「面倒見のよい病院として全人的医療を担う」。「急性期から回復期医療及び感染症への対応」「地域包括医療」「予防医学の機能」といった特徴的な取り組みを引き継ぎ、現在ある診療科を維持することを基本としています。

今後は8月中旬の地域医療懇話会までに建設場所の調整を進め、その後に住民説明会、意見公募などを行い、9月予定の胆江圏域地域医療連携会議に諮る考えです。

今後のスケジュールは、来年度までに基本構想、基本計画を策定し、22~23年度に基本設計と実施設計、申請などを経て24年度に発注手続き。24~25年度に工事を行い、2026年度開院を目指すこととしています。

大谷翔平選手の成績ボード(R3.7.28現在)

打者 打率276 本塁打36 打点78 盗塁14

投手 勝利5 敗戦1 防御率3.04 奪三振100

トピックス 6月の月間最優秀選手表彰を受ける

7月8日 米大リーグ日本人最多32号本塁打記録

松井秀喜の米大リーグ日本人年間31本を更新する

7月13日 米大リーグホームランダービーに出場

7月14日 米大リーグオールスターに指名打者と

投手の二刀流で先発出場し勝利投手になる。

7月28日現在 本塁打36本は米大リーグ第1位

オリンピック中継で大谷選手の中継がないのが残念です！

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和3年7月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

奥州遺産 獅子躍（ししおどり）：金津流梁川獅子躍・・・ときを越え受け継がれるもの・・・

2021年は東京オリンピック開催の年ですが、1964年の東京オリンピック大会の民俗芸能展示へ出演したのが奥州市の「江刺金津流梁川獅子躍」です。令和元年8月号に掲載された記事等を紹介します。

神の使い「シシ」となり、太鼓を打ち鳴らしながら勇壮に舞う――。江刺梁川の金津流梁川獅子躍（県指定無形民俗文化財）は、1828年に江刺郡旧石関村から伝承され、地域の神事芸能として踊り継がれてきた。

日本が高度経済成長期を迎えるころ、梁川獅子躍は活躍の場を広げていく。オリンピック東京大会民俗芸能展示へ出演したほか、大阪万博などにも出演。さらには海外でも数々の公演を行い、獅子躍の魅力を国内外に知らしめた。現在は10人で活動しており、遠く東京から参加するメンバーもいる。8月16日には江刺夏祭りに出演し、圧巻の百鹿大群舞を披露する予定だ。



梁川獅子躍は、近隣の組への伝承活動や後継者の育成にも力を注ぐ。及川俊一代表は、「獅子躍が好きなら、地区や年齢に関係なく教えたい」と情熱を傾ける。200年近い歴史を重ねてきた梁川獅子躍。大樹となったその枝



には、いくつもの若葉が芽吹いている。

- ① 装束には九曜紋や蝶紋、車紋などがあしらわれる。太鼓胴部に巻かれたシラベ隠しの色は「ふし染」。
- ② 獅子頭の後部には流派である「金津」と、流祖の地である「次橋」の文字が記されている。
- ③ 庭元の平野幸雄さん宅にある初代・菊池太蔵の供養碑。毎年7月に太蔵を顕彰する祭りが開かれ、梁川獅子躍の分派が一堂に会する。
- ④ 平成15年に地元梁川でこども獅子踊を結成したほか、おとしし（注：平成29年）からは江刺中央体育館でも教室を開催。さまざまな場所から生徒が集まり、熱心に練習に励んでいる。

かなつりゅうししおどり 金津流獅子躍

金津流獅子躍は岩手県南から宮城県北に広く伝わる鹿角をつけ、背中にササラという依代を背負い、腰にさげた太鼓を叩きながら踊る鹿踊の一流派であり、「獅子躍」と名乗ることが多い。祖霊供養・悪霊退散・五穀豊穡を祈願し、寺院や民家の庭で踊られ、かつ神社の例祭に奉納する神事芸能として伝承されてきた。金津流獅子躍は鹿踊の中で踊りや装束が洗練されている流派であり、また伝承に関わる儀式も伝統に則り厳格に守られている。金津流は技芸の伝承も厳しく、全団体が一系乱れぬ踊りが出来るのが特徴である。

